

---

# 石川県産業革新戦略2010 〔骨子案〕

---

平成22年1月  
石川県商工労働部

# 産業革新戦略2010策定の趣旨・基本的事項

## 1 策定の趣旨

本県産業振興の基本方針である「石川県産業革新戦略」は、平成17年3月の策定から、5年目を迎え、ちょうど中間地点に到達する。

この間、知的クラスター創成事業による予防型社会創造産業の創出やニッチトップ企業の育成など戦略に掲げた施策の着実な推進に努めるとともに、産業別戦略の策定(平成20年3月)やいしかわ産業化資源活用推進ファンドの創設(平成20年5月)をはじめとした新たな取り組みも加えながら、戦略を推進してきたところである。

しかしながら、平成20年秋以降の世界同時不況の中、本県の経済、雇用情勢は厳しい状況が続いており、策定時の状況から大きく様変わりしている。

さらに、本県産業を取り巻く環境は、  
 中国やインドをはじめとした新興国市場の爆発的な拡大  
 地球環境問題や資源制約への対応の必要性  
 健康、安全・安心に対する意識や重要性の高まり  
 少子高齢化とそれに伴う人口減少  
 など、大きな転換点の真っ只中にあると考えられる。

さらに、北陸新幹線の金沢開業(平成26年度予定)など、本県産業を取り巻く環境が、今後も大きく変化していくと予想される中、あらためて本県産業が置かれている外部環境や足元の産業実態を踏まえ、激化するグローバル競争や地域間競争に本県産業がいかにか力強く勝ち残っていくか、その具体的な方向性、言うなれば、次なる成長への新たな道筋を示すため「産業革新戦略2010」を策定する。

## 2 産業革新戦略2010の位置づけ

石川県新長期構想(平成19年3月策定)に掲げた重点戦略の一つである「競争力のある元気な産業づくり」を推進するための分野別計画

科学技術基本法に基づく本県における科学技術振興指針

## 3 計画の期間

本県産業を取り巻く環境のめまぐるしい変化に鑑み、現行の産業革新戦略の計画期間である平成17年度～平成26年度の残期間である平成22年度～平成26年度の5年間の計画期間とする。

なお、平成23年度に中間レビューを実施し、平成24年度以降の産業革新戦略2010の推進に反映させる。

## 4 本県産業の現状

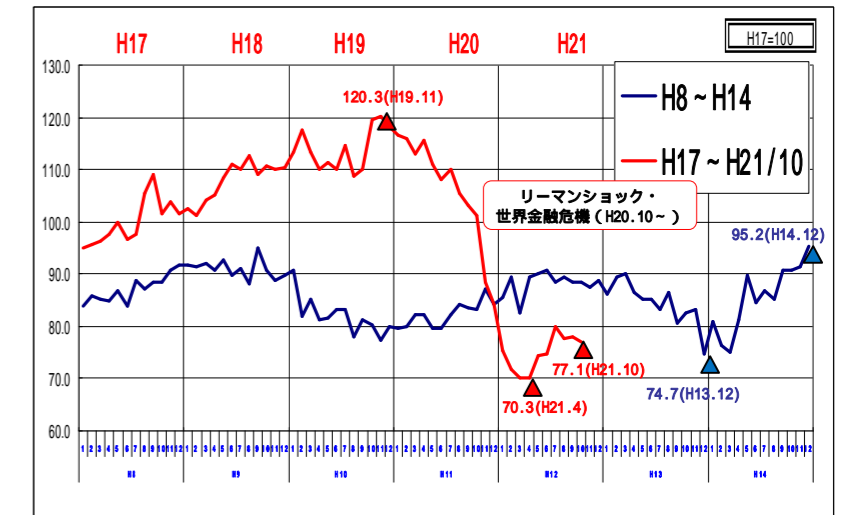
### 【生産活動・雇用】

平成20年秋までは旺盛な海外需要を背景に全国平均を上回る高水準の生産活動や求人状況が続いたが、金融危機発生後は一転し、急速に全国平均を下回り大幅に悪化した。

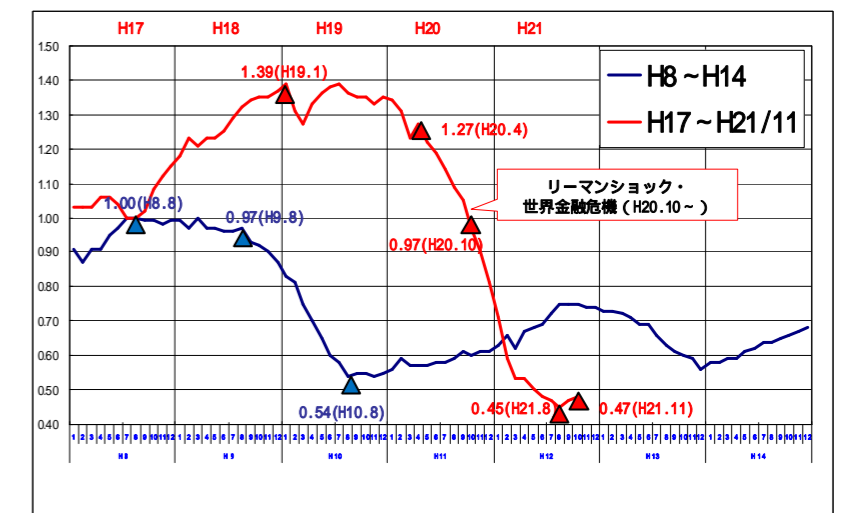
生産面では、電気機械を中心に全体としては持ち直しの動きが見られるものの、一般機械や繊維など依然として厳しい状況にある業種も多く、生産水準は低調に推移している。

雇用面では、有効求人倍率が昨年8月に過去最低の0.45倍を記録した。以降も、低い水準で推移しており、厳しい状況が続いている。

鉱工業生産指数の推移



有効求人倍率の推移



### 【企業構造】

▶企業数の99%以上を中小企業が占め、本県経済を支えている。一方、大企業の占める割合は東京、大阪、神奈川、愛知、福岡に次ぎ全国6位。

企業数(平成18年、民営・非一次産業)

48,163事業所 うち99.8%は中小企業、88.3%は小規模企業、大企業は120社、0.25%

製造業の従業者規模別事業所割合・従業者割合・従業者1人あたり製造品出荷額・同付加価値額(平成19年)

	4～9人	10～19人	20～29人	30～49人	50～99人	100～199人	200～299人	300人以上
事業所数で占める割合	49.3%	23.1%	10.6%	6.6%	5.7%	2.8%	0.7%	1.1%
従業者数で占める割合	10.5%	11.3%	9.2%	9.2%	14.1%	13.5%	6.3%	25.9%
従業者1人あたり製造品出荷額	1,027万円	1,495万円	1,779万円	2,105万円	2,428万円	3,240万円	2,943万円	4,669万円
従業者1人あたり付加価値額	548万円	735万円	785万円	786万円	867万円	1,044万円	932万円	1,449万円

# 本県産業の強み・課題と外部環境

## 本県産業の強み・課題

### 活用すべき強み

#### 層の厚いモノづくり産業の集積

- ・ 建設機械、工作機械など国際展開を図る機械メーカーと、これらを支える幅広い加工分野にわたる関連企業が集積
- ・ 糸加工から織編、染色、縫製の川中工程が揃った合繊織物産地の形成
- ・ 優れた食文化を背景とした加賀料理や和菓子、伝統的発酵食品などの特徴ある食品製造業の集積

#### 独自の技術を有し、特定の分野でシェアトップであるニッチトップ企業の集積 情報サービス産業の集積

(人口当たり事業所数全国3位、従業者数全国5位、売上高全国6位)

#### 海外への物流拠点となる港湾等(金沢港・小松空港)

#### 三大都市圏とのアクセスのよさ

(北陸新幹線の金沢延伸、小松・能登空港、高速道路)

#### 大学等高等教育機関の集積

(人口当たり高等教育機関数全国2位、特に理工系やデザイン等)

#### 加賀百万石の歴史と伝統に育まれた工芸品や食文化、美しい自然や特色ある食材をはじめとした豊富な地域資源

#### 少子高齢化などの社会課題解決に向けた製品・サービスづくりや実証に取り組める社会環境(ピンチをチャンスに)



### 対処すべき課題

世界経済の変動の影響を受けやすい機械産業などを中心とした産業構造から、多様性を持つ産業構造への移行

中小企業部門の経営基盤の強化

高度専門人材の不足や若者のモノづくり離れの克服

## 本県産業を取り巻く外部環境

### 拡大する機会

健康、環境などの社会的課題解決に伴う新たな市場の出現

(健康・介護サービス、エコカー、太陽光発電など)

アジアをはじめとした新興国市場の拡大

技術革新の進展、ビジネスモデルの変革に伴う新たな市場の出現

(IT・インターネットなど)

ライフスタイルの多様化に伴う心の豊かさを求めるニーズの拡大

(癒し、スローライフ、カッコよさなど)

【2014年(予測)】



世界経済の見通し(IMF、2009年4月)

### 直面する脅威

需要回復の遅れや産業分野によるバラツキ

国内市場の縮小傾向

新興国の台頭による競争激化

川上・川下の取引企業の海外生産へのシフト、国際分業の進展

資源制約、環境制約の高まり

# 産業革新戦略2010の基本的な考え方

## 目指すべき姿

### 目指すべき経済社会

産業活動による健康・環境など社会的課題の解決  
 域内市場産業と域外市場産業の好循環による持続的発展  
 市場と社会の両立により持続的に発展する活力ある経済  
 社会の構築

### 産業構造

基盤技術の高度集積を活かし多様なニーズに応える  
 基幹産業群  
 健康・環境など裾野の広い次世代産業群  
 各地域の特性を活かした産業群

伝統と創造で築く厚みある多様な産業構造

### 企業

ニッチトップ企業などの独自の製品・サービスや高い  
 技術力等で市場を切り拓く企業  
 多様な市場・顧客ニーズに高い対応力で応える企業  
 優れた人材が集まる魅力ある企業

個性と対応力で持続的に成長する企業

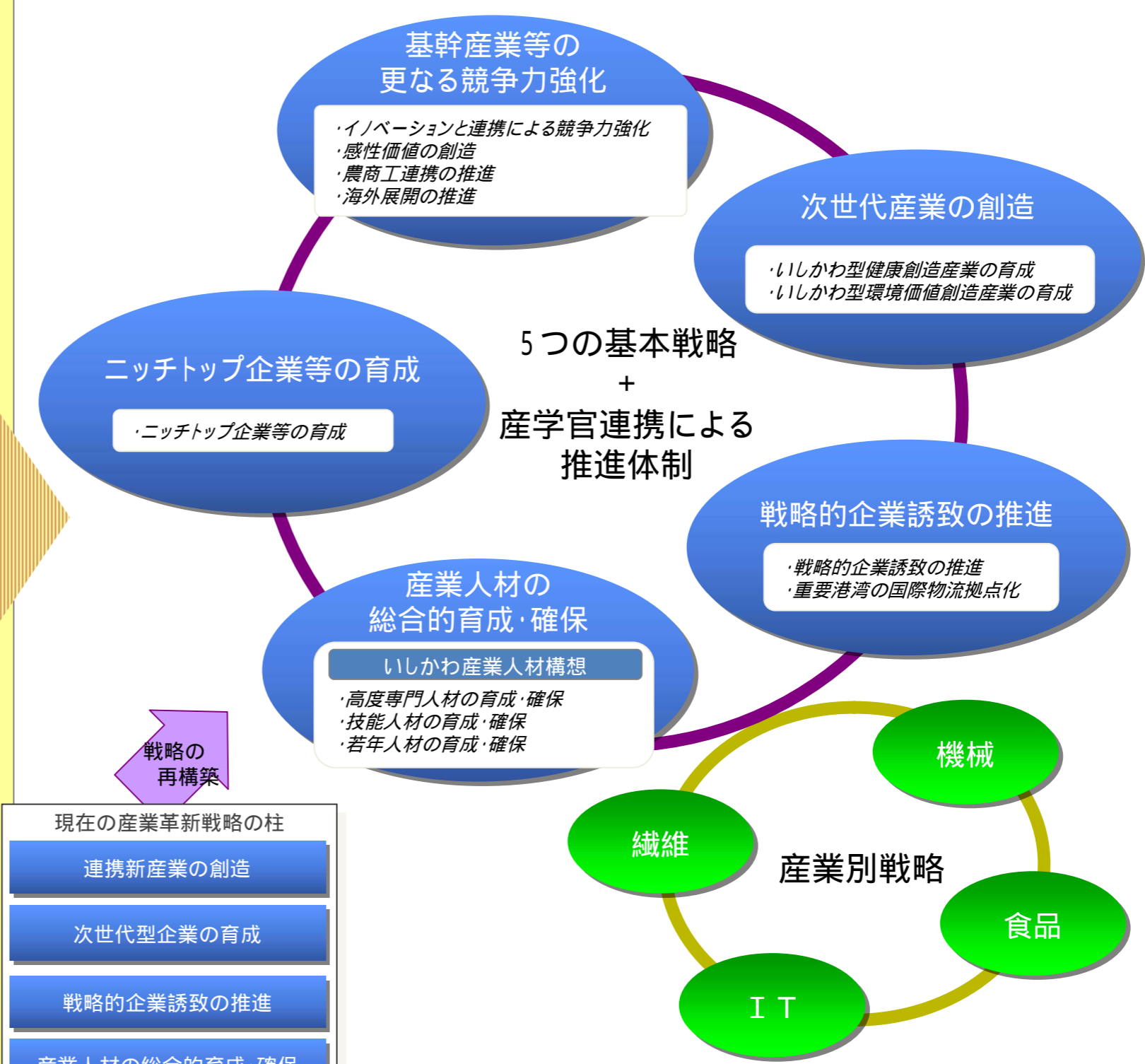
### 人材

優れた知識と企画・提案力を備えた高度専門人材  
 確かな技術と多様な技術を併せ持つ技能人材  
 石川の産業に夢と誇りを持ち次代を支える若年人材

知恵・技・夢を持ち石川の未来をつくる産業人材

## 戦略の柱

### 「競争力のある元気な産業づくり」の推進



戦略の  
再構築

現在の産業革新戦略の柱

連携新産業の創造

次世代型企業の育成

戦略的企業誘致の推進

産業人材の総合的育成・確保

### 石川の強みの活用

高等教育機関の集積  
「知」の創造力

基盤技術の集積  
優れた「技」

地域資源の集積  
豊かな「素材」

交通インフラの充実  
開かれた「交流基盤」

# いしかわ産業人材構想の基本的な考え方

人口減少時代においても産業活力を維持していくため、高度化・複合化する業務に対応できる高度専門人材やモノづくりを支える技能人材の育成・確保、将来の本県産業を担う若年人材の育成・確保など、本県の産業活力を支える人材の総合的な育成・確保に取り組む。

## 石川県産業人材プラン(2007年2月)

(背景)

2007年問題(団塊世代の大量退職)  
ベテラン技能者の技能継承、各階層・工程のリーダー育成  
好況による人手不足  
高度専門技術者の誘致、若年者の就業促進

(施策体系)

### 産業人材の育成

- (1) 地域の教育インフラを活用した製造業における中核人材の育成
- (2) ベテラン人材が培ってきた技術技能等を継承し、磨きをかける取り組みの推進

### 産業人材の確保

- (1) 技術者、専門人材等の確保のための実効性ある取り組みの推進
- (2) 将来の就職を見据えた早い段階での本県産業及び企業の魅力発信
- (3) 人材確保が容易でない中小企業、地域の人材確保に対する支援

### 産業人材の裾野の拡大

- (1) 発達段階に応じた産業人材として必要な基礎的能力の養成、若者と企業の雇用のミスマッチ解消
- (2) 女性、OB人材等の活用促進

## 外部環境の変化と克服すべき課題

### 環境変化

業務の高度化・複合化に対応できる高度専門人材の必要性の高まり  
不況に伴う労働力の余剰感の高まり  
社会環境の変化に伴う若者のモノづくり離れの進行

### 克服すべき課題(必要とされる人材)

自社の技術力と取引先のニーズを的確に結び付け企画・提案ができる人材の育成・確保  
消費者ニーズ等に的確に対応し、素材の調達から製造・販売までをコーディネートできる人材の育成・確保  
生産拠点やマーケットの海外展開に対応できる、グローバルな視点を持つ人材の育成・確保  
需給変動に即応できる体制の構築に向けた、複数の工程を担当できる多能工の育成  
少子化や将来の景気回復期に備えた若年技能者の育成  
本県産業の次代を担う若年者のモノづくり離れの防止

## 人材プランの再構築

## いしかわ産業人材構想における目指すべき姿 (育成・確保すべき人材)と施策の方向性

### 優れた知識と企画・提案力を備えた高度専門人材

- (1) 複合的な領域を統括し企画・提案のできる人材の育成・確保
- (2) 製造業の現場を支える中核人材の育成・確保
- (3) グローバル化に対応できる人材の育成・確保
- (4) 女性・OB人材等の活用促進

### 確かな技術と多様な技術を併せ持つ技能人材

- (1) 在職者の多能工化の推進
- (2) 若年者訓練の充実
- (3) 教育機関・支援機関の連携による一元的な情報・サービスの提供

### 石川の産業に夢と誇りを持ち次代を支える若年人材

- (1) 次代を担う若年者のモノづくり離れの防止
- (2) 若年者を対象とした本県産業・企業の魅力発信の強化
- (3) 若年者のコミュニケーション能力の向上と就業支援及び早期離職の防止

~「知恵」・「技」・「夢」を持ち  
石川の未来をつくる産業人材~